

北海道次世代半導体産業立地推進本部第2回本部会議

令和5年4月26日（水）13：30～13：39

本庁舎3階 テレビ会議室

（土屋副知事）

これより、北海道次世代半導体産業立地推進本部第2回の本部会議を開催いたします。

それでは、議事を進めます。経済部長から説明をお願いします。

（中島部長）

まずは、資料1をご覧ください。

こちらは、国やRapidus株式会社の動きとして、昨日、国から発表されましたRapidus社の2023年度の計画や予算の承認にかかる公表資料についてご説明申し上げます。

2ページ目をご覧ください。

次世代半導体プロジェクトの体制についてでございますが、1行目に書いてございます、短TAT、すなわち製品の完成までに要する時間の短い量産基盤体制の構築の実現に向けまして、①でございますけれども、先端設計、先端装置・素材の要素技術に係るオープンな研究開発拠点として「技術研究組合最先端半導体技術センター」、略称LSTCでございます、こちらを立ち上げること、それから②として、将来の量産体制の立上げを見据えた量産製造拠点としてラピダスを立ち上げること、この2つを表明しております。

次、スライド3をご覧ください。

LSTCでございますけれども、次世代半導体の量産技術の実現に向けた研究開発拠点として昨年12月に設立されております。Rapidusの取締役会長も務めていらっしゃる東理事長をトップにいたしまして、研究開発テーマを策定する東京大学や東北大学、Rapidusの関係者などで構成される研究開発策定委員のもと、次世代半導体に資する研究開発を行いますほか、プロフェッショナル・グローバル人材の育成や、次世代半導体の需要となる新産業の創出を目指すとしております。

次、スライド5でございます。

次世代半導体人材の育成プログラムについてでございますが、先ほどのLSTCを事務局といたしまして、国内外の次世代半導体産業と大学等の教育機関が連携した「人材育成プログラム」を検討するとしておりまして、左下の教育機関・研究機関の例という中に書かれておりますとおり、北海道からは北大が参画することになっております。

次にスライド8でございます。

こちらでは、本道におけます、これまでの取組が紹介されておりました、道が進めてまいりました推進体制、連携体制の強化に向けた取組ですとか、あるいは本日、千歳市にて開催する半導体理解促進セミナーなどを紹介されております。

次、スライド10でございます。

こちらが、冒頭申し上げました、このたび承認されましたRapidusの2023年度の計画や

予算を紹介している資料でございます。ポスト5G基金事業を活用するRapidus社の今年度の計画・予算が、昨日、支援上限を2,600億円として国から承認されたところでございます。今年度の取組といたしまして、中段真ん中のところでございますとおり、北海道千歳市のパイロットラインの基礎工事、IBMアルバニー研究所へ研究員を派遣、などをおこなっておりまして、将来的には、右側でございますけれども、先端ロジックファウンドリ、すなわちデータ処理のAIの頭脳の役割を果たす半導体の生産工場として事業化を行うことを目指すとしております。

次スライド11、これは令和4年度半導体関係の補正予算合計1.3兆円の内容になっております。

スライド12から14につきましては、昨日の国の承認を受けてRapidus社から出されましたリリースや、北海道、千歳市のコメントを添付しておりますので、こちらは後ほどご覧いただければと思います。

次に資料の2でございますけれども、先ほどちょっと申し上げました、本日18時から、千歳市の北ガス文化ホールにおきまして、道民の皆様方のご理解と共感をいただくために、次世代半導体が北海道の未来をどのように変えていくのか、などの内容で、「次世代半導体とほっかいどうの未来」を開催するのでお知らせいたします。道民の皆様から高い関心をいただいております、予約で満席となっております。詳細につきましては、別添資料にてご確認いただければと思います。

以上でございます。

(土屋副知事)

はい、ありがとうございます。今までの説明に関して、ご質問等ございましたら。よろしいですか。このほか、各部・振興局等からご発言等あればお願いいたします。よろしいですか。それでは、知事からお話をお願いいたします。

(知事)

経済部長の方から報告がありましたとおり、昨日ですけれども、Rapidus社が進める次世代半導体の製造拠点の整備事業について、本道における過去最大の投資規模に匹敵をする2,600億円を、この支援の上限とする2023年度の計画・予算が国から承認をされたところであります。

私といたしましても、一緒に挑戦をしていくパートナーという気持ちで取り組んできておりますので、この度の承認を大変うれしく思っているところであります。

いよいよ千歳市におけるパイロットラインの基礎工事が始まることとなります。世界最先端・最高水準の半導体を北海道から世界に届けるという前例のない壮大なプロジェクトが本格的に動き出すこととなります。

同社が掲げる2025年のパイロットラインの完成、そして、2020年代後半の量産製造の開始という目標の実現に向けて、今後、様々な対応が求められることとなります。この推進本部のもとで、新たに設置をした次世代半導体戦略室が中心となって、国の関係機関や

千歳市との連携会議など、これまでに構築をした支援体制を最大限に活用しながら、全庁一丸となり、オール北海道で、スピード感をもって取り組んでいかなければなりません。

まずは、パイロットラインの完成を目指す2025年まで残された時間は限られています。各本部員においては、想定されるあらゆる課題に対し、バックキャストिंगで実効性のある課題解決策を速やかに提示できるように、必要なサポート体制を強化しながら、しっかりと準備を進めるようお願いをいたします。

また、このプロジェクトの成功には、道民の皆様のご理解と共感が不可欠であると考えています。先程ご報告のあった本日開催の千歳市でのセミナー、こちらには非常に多くの方がお申し込みをいただいたということでもあります。これ、400人を超える、だいぶお申し込みがあったんですか。

(土屋副知事)

400人で、もう満杯です。

(知事)

満杯になったということなんですね。ということでもあります。こういったセミナーのみならず、この本日のセミナーを皮切りに、今後とも、様々な手段、機会を活用して、道内での機運の醸成、そしてこのプロジェクトの理解の促進、これに切れ目なく取り組んでいく必要があると考えておりますので、この点もお願いいたします。

さらに、次世代半導体の製造に加えて、研究、人材育成が一体となった複合拠点の実現に向けて、製造装置や素材といった関連産業の集積はもとより、道内企業の取引参入やデジタル人材拠点の形成に戦略的に取り組んでいくなど、その成果を全道に波及させていく、本道経済を活性化させていく、こういったことに繋げていくために必要な施策を検討するように指示をいたします。

私からは以上です。

(土屋副知事)

はい、ありがとうございます。知事からご指示あったことについて、本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、第2回本部会議を終了いたします。